



# 平成30年3月期 第1四半期

(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

## 決算短信(連結)補足資料



# FUJI フジ住宅株式会社

平成29年7月31日(月)

# 目次

## PAGE

1. 平成30年3月期 第1四半期決算サマリー  
(平成29年4月1日～平成29年6月30日)
2. 通期売上高予想に対する進捗状況
3. 事業セグメント別売上高(前年同期比較)
4. 四半期毎の売上高計画推移
5. 事業セグメント別受注契約高(前年同期比較)
6. 四半期毎の受注契約高計画推移
7. 事業セグメント別営業利益(前年同期比較)
8. 平成30年3月期の配当について
9. トピックス
10. 業績予想の適切な利用に関する説明

# 平成30年3月期 第1四半期決算サマリー

## (平成29年4月1日～平成29年6月30日)

1. 当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高27,214百万円(前年同期比18.4%増)、営業利益1,820百万円(同28.4%増)、経常利益1,726百万円(同21.9%増)、四半期純利益1,174百万円(同20.7%増)となりました。

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前第1四半期実績	百万円 22,993	百万円 1,417	百万円 1,416	百万円 973
当第1四半期実績	百万円 27,214	百万円 1,820	百万円 1,726	百万円 1,174
前年同期比	18.4%増	28.4%増	21.9%増	20.7%増

2. 当第1四半期連結累計期間の業績は、通期予想に対し順調に推移いたしました。

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
通期予想	百万円 103,000	百万円 6,300	百万円 6,000	百万円 4,150
当第1四半期実績	百万円 27,214	百万円 1,820	百万円 1,726	百万円 1,174
進捗率	26.4%	28.9%	28.8%	28.3%

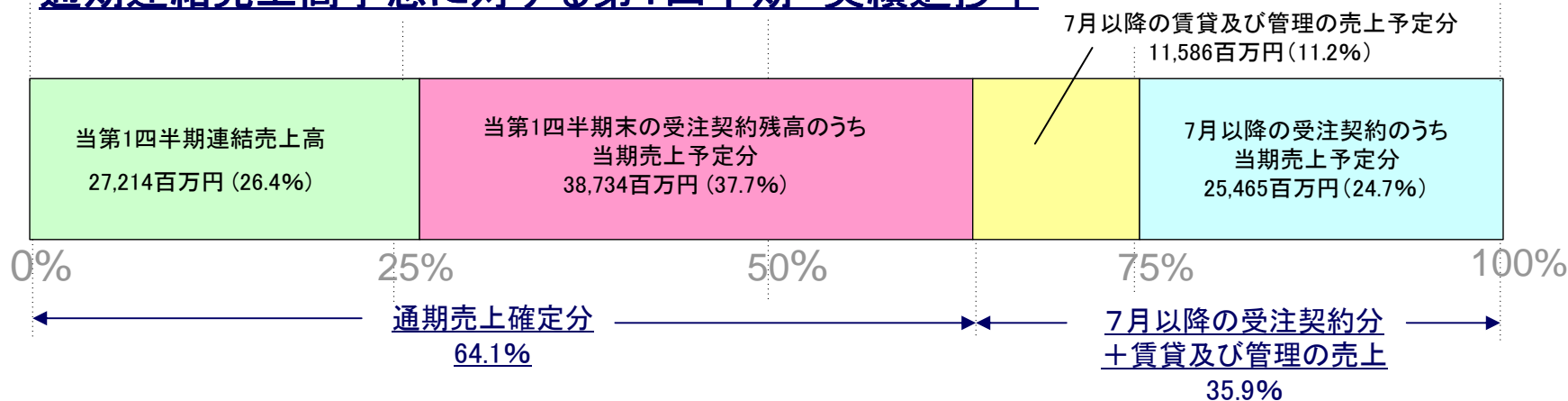
幸せはこぶ住まいづくり

# 通期売上高予想に対する進捗状況

当第1四半期の連結売上高実績(27,214百万円)に、当第1四半期末の受注契約残高のうち、当期売上予定の38,734百万円を加えた65,948百万円(通期目標の64.1%)が確実に当期の売上高に見込まれます。これに建売・中古住宅及び分譲マンションの一部の7月～2月の受注契約と、賃貸及び管理の7月～3月の売上が当期の売上高に加わります。

	平成30年3月期 第1四半期実績	平成30年3月期 通期予想	進捗率
連結売上高	27,214 百万円	103,000 百万円	26.4%

## 通期連結売上高予想に対する第1四半期 実績進捗率



幸せはこぶ住まいづくり

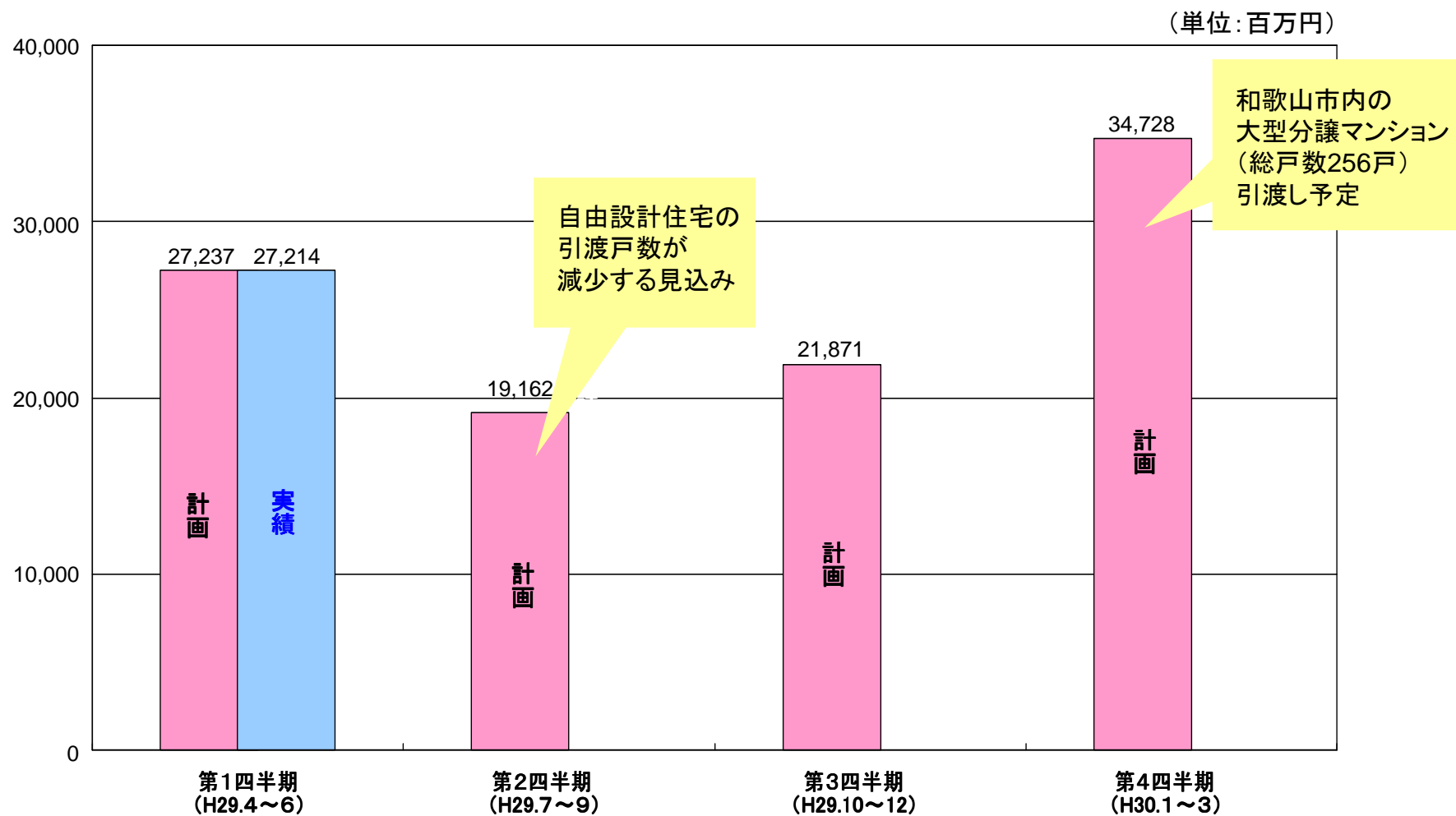
# 事業セグメント別売上高(前年同期比較)

(単位:百万円)

		前第1四半期 連結累計期間実績 (H28.4~H28.6)		当第1四半期 連結累計期間実績 (H29.4~H29.6)		前年同期比
分譲住宅	自由設計住宅	170戸	6,199	198戸	7,609	22.7 %増
	分譲マンション	37戸	960	7戸	168	82.5 %減
	土地販売	10,077㎡	1,222	9,500㎡	1,566	28.2 %増
	計	207戸 10,077㎡	8,382	205戸 9,500㎡	9,344	11.5 %増
住宅流通	中古住宅	367戸	6,722	391戸	7,986	18.8 %増
	建売住宅	26戸	698	11戸	314	55.0 %減
	土地販売等	532㎡	32	- ㎡	-	-
	計	393戸 532㎡	7,452	402戸 - ㎡	8,300	11.4 %増
土地有効活用	賃貸住宅等建築請負	9件	1,615	10件	1,360	15.8 %減
	個人投資家向け 一棟売賃貸アパート	18棟	2,139	31棟	4,424	106.8 %増
	計	9件 18棟	3,755	10件 31棟	5,784	54.0 %増
賃貸及び管理	計	-	3,286	-	3,764	14.6 %増
注文住宅	計	5戸	117	1戸	20	82.5 %減
合計		605戸 10,610㎡ 9件 18棟	22,993	608戸 9,500㎡ 10件 31棟	27,214	18.4 %増

幸せはこぶ住まいづくり

# 四半期毎の売上高計画推移 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)



幸せはこび住まいづくり

# 事業セグメント別受注契約高(前年同期比較)

(単位:百万円)

		前第1四半期 連結累計期間実績 (H28.4~H28.6)		当第1四半期 連結累計期間実績 (H29.4~H29.6)		前年同期比
分譲住宅	自由設計住宅	222戸	8,502	214戸	8,432	0.8 %減
	分譲マンション	56戸	1,460	17戸	589	59.6 %減
	土地販売	10,077㎡	1,222	2,473㎡	32	97.3 %減
	計	278戸 10,077㎡	11,184	231戸 2,473㎡	9,054	19.0 %減
住宅流通	中古住宅	342戸	6,424	365戸	7,843	22.1 %増
	建売住宅	32戸	870	10戸	322	62.9 %減
	土地販売等	691㎡	41	- ㎡	-	-
	計	374戸 691㎡	7,335	375戸 - ㎡	8,166	11.3 %増
土地有効活用	賃貸住宅等建築請負	13件	1,414	13件	1,587	12.2 %増
	個人投資家向け 一棟売賃貸アパート	35棟	4,517	23棟	3,462	23.4 %減
	計	13件 35棟	5,932	13件 23棟	5,049	14.9 %減
注文住宅	計	7戸	178	6戸	134	24.5 %減
合計		659戸 10,769㎡ 13件 35棟	24,631	612戸 2,473㎡ 13件 23棟	22,404	9.0 %減

※1

※2

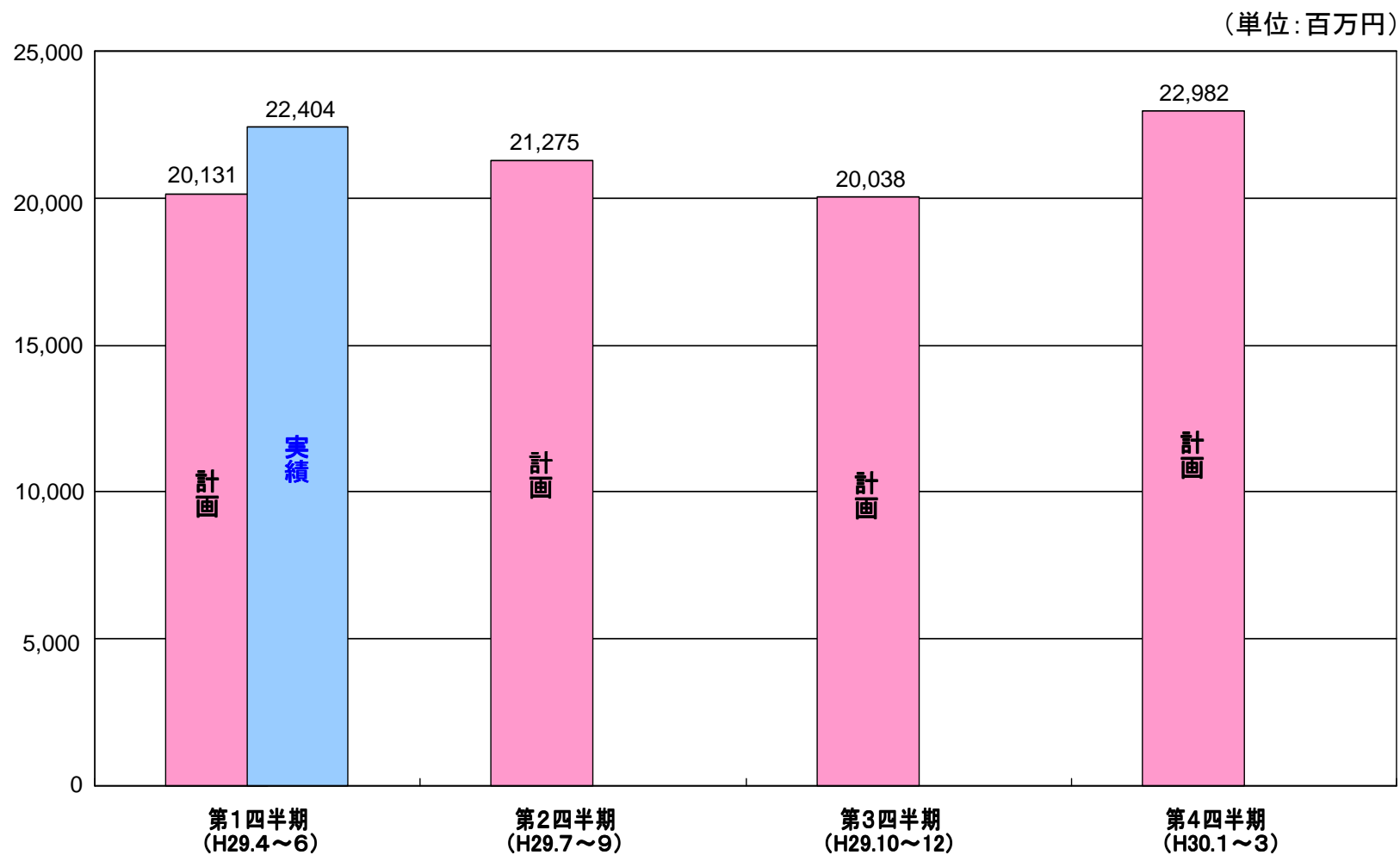
※1. 当第1四半期の和歌山市内の大型分譲マンション販売が終盤の残戸販売となったため減少いたしました。

※2. 第1四半期の個人投資家向け一棟売り販売の受注契約高は、減少いたしました。

これは、第2四半期以降に新規物件の供給増加を予定しており、供給が一時的に減少したことによるものです。

幸せはこぶ住まいづくり

# 四半期毎の受注契約高計画推移 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)



幸せはこぶ住まいづくり



# 事業セグメント別営業利益（前年同期比較）

（単位：百万円）

	前第1四半期 連結累計期間実績 (H28.4～H28.6)	当第1四半期 連結累計期間実績 (H29.4～H29.6)	前年同期比	備考
分譲住宅	751	789	4.9 %増	自由設計住宅の引渡戸数が前期に比べ増加したことにより、増益となりました。
住宅流通	321	195	39.2 %減	引渡戸数は前年より増加したものの、中古住宅の良質な物件への入替えを目的に一部の低採算物件を積極的に処分したことと利益率の高い新築建売住宅の減少により、減益となりました。
土地有効活用	389	895	129.9 %増	個人投資家向け一棟売り販売が倍増したことにより、大幅に増益となりました。
賃貸及び管理	225	314	39.1 %増	土地有効活用事業にリンクした賃貸物件及び分譲マンション引渡しに伴い、管理物件の取扱い件数が増加したことと、中古住宅アセット事業による中古賃貸物件の増加により、増益となりました。
注文住宅	9	△8	—	—
合計	1,698	2,185	28.7 %増	

幸せはこぶ住まいづくり

## 平成30年3月期の配当について

中間配当金(予想)	1株あたり	14円
期末配当金(予想)	1株あたり	13円
年間配当金(予想)	1株あたり	27円

(ご参考)平成29年3月期

中間配当金(実績)	1株あたり	13円
期末配当金(実績)	1株あたり	13円
年間配当金(実績)	1株あたり	26円

幸せはこぶ住まいづくり

# トピックス: 大阪市内に屋外広告 2箇所同時掲出

平成29年7月初旬より、大阪を代表するキタ(御堂筋)とミナミ(道頓堀)に屋外広告を掲出いたしました。

## キタ(御堂筋)堂島ビルディング屋上塔広告看板について

堂島ビルディングは、大阪市のメインストリート御堂筋(大阪市北区)に面した好ロケーションに1923年(大正12年)に建築された近代建築の一つで、当時都市的な機能を集約した画期的なビルとして、同年竣工の東京 東の「丸ビル」に対し、西の「堂ビル」の名で親しまれるようになりました。

### 【堂島ビルディング屋上塔広告看板掲出企業の変遷】

- 1社目 トヨタ自動車株式会社 1961年～1994年
- 2社目 株式会社東芝 1995年～2016年
- 3社目 フジ住宅株式会社 2017年～



## ミナミ(道頓堀)の屋上広告看板について

道頓堀エリアは、大阪を代表する観光エリアで、近年では外国からの観光客や大阪以外から来られる方の絶対的な訪問先として、大阪並びに日本を代表する観光地として評価されております。

ミナミ(道頓堀)の屋上広告看板の横幅は近隣ネオンの中では最大規模となり、昼夜にかかわらず、歩行者の多い戎橋から最高のロケーションに位置し、道頓堀川兩岸の遊歩道を散策する多くの人々の視線も集めます。



幸せはこぶ住まいづくり

本資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、当社が現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいており、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因の変化等によりこれらの見通しと異なる可能性があります。